（別紙4）　　平成　23　年度　　評価確定日　平成23年6月19日

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075500316
法人名	社会福祉法人　笠松会
事業所名	グループホーム笠松の郷　（ユニット名　　）
所在地	福岡県宮若市上有木320番地
自己評価作成日	平成23年5月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7－1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム開設より9年になる。開設当初より、認知症があっても普通に暮らせることを目標に、ご家族と共に歩んでいる。ご家族も家族だからできること“愛情”を他の入居の方や職員にも注いでくださっている。このことは職員の優しい気持ちとなり、入居の方に還元されていると思う。入居の方が、ご家族、地域の方々に支えられながら楽しみのある生活になるように、職員は常に考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体法人である有吉病院院長が、身体拘束廃止の運動をしており、認知症でも、病院ではなく普通の生活が出来るホームを目指し設立したグループホームである。また、筑豊地域に住む高齢者が、自分の年金の範囲で入居できるホームでありたいと考えている。家族と共に歩み、家族と職員が双方で支え、利用者の安らぎの場所作りと、安心した生活の継続を目標にしている。管理者、職員は常に利用者の立場に立って、利用者の残存機能を活かし、一人ひとりの思いや意向を大切に、その人らしい暮らしが維持できるように支援している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：20,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,22）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「生活のここちよさが生きるここちよさになる」をもとに、お一人お一人のより安心できる生活とは何かを常に話し合いながら実践につながる努力をしている	管理者、職員共に理念を共有し日々のケアに努めている。職員は「この方にはどんな気持ちで、どんなケアをしているか」「誰のケアを観てどう思ったか」についてレポートを書くことがあり、家族にもレポートを見てもらい、理念を振り返る機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議から、グループホームへの関心を少しでも地域の方に発信し、利用者が普通に暮らせるように行き来できる関係を作っている	元々、法人が地域に根付いており、地域の方からもあらためて町内会に入らなくても良いと言ってもらっている。運営推進会議等を通じ、ホームに対して理解を得ており、日頃の挨拶や野菜を頂く等の日常的な交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今回始めて運営推進会議の中で、認知症サポーター養成講座を今月開催し、広く運営推進委員以外の地域の方にも受講していただいた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価を受けるたびに報告をし、運営推進委員ご家族から率直な意見をいただきながら、利用者御家族の安心できる生活になるよう努めている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、市職員、老人クラブの前会長・現会長、民生委員、知見者、家族（4人以上）、利用者（2～3人）、職員、同法人施設長等の参加がある。外部評価の報告、近況報告、実践報告等を行い意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が実施した認知症予防事業にスタッフを派遣したりと、関係作りを行っている	今年から宮若市で認知症キャラバンメイトサポーター養成講座を実施し、管理者が講師として招かれたり、市役所とホームがお互いに意見交換出来るように働きかける等、積極的に協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修にも参加しているが、何が利用者にとって身体拘束になるのか、職員同士が常に心がけ話し合いながら身体拘束しないケアに努めている	職員が外部研修に参加し、他の職員にはミーティングで報告し伝達研修を行っている。身体を拘束したり、自由を制限することなく、言葉の拘束には特に気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修には参加しているが、ミーティングで話し合い小さな気づきを大切にしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修には参加しているが、運営推進会議の議題としてもあげて、地域の方も一緒に考えている。個別に必要な方には、個人的にもお話をしている	現在、権利擁護に関する制度を利用している方はいない。職員は研修等で制度について学んでいるが、ホームでは地域の方にも制度について学習できる機会を作り、働きかけ一緒に学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、又、毎月行っている家族面談にて十分話し合える機会を作っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等にスタッフへ些細な事でも言って下さっている。また、そのような関係作りを行っている	家族の面会時には、職員と話しやすい雰囲気を作っている。職員の手作り料理でのおもてなしや外食にて、年2回ほどの職員と家族だけの交流会を行っている。その際、直接色々な思いを話してもらえるので、それらを運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開設当初より、職員から出た意見は取りあえずやってみることを続けている	職員は、日々のケアの中でも管理者に意見を言いやすい関係にあり、その都度思った事を聞いてもらっている。ミーティングの中でも、利用者のために1日の流れを改善し快適に過ごせるように提案したりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	プライベートの充実することが良いケアに通ずることとの考えで、なるべく希望の休みは取れるようにしている。又、資格習得や研鑽のための研修には職員間での思いやりの出勤となっている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員に採用するときは、性別・年齢で排除する事は無い。働いている職員それぞれの得意とすることをより深く責任を持って発揮している。	管理者は、その人の心の底にある思い、素直さ等を感じ取り採用している。希望休も取りやすく、それぞれの得意分野を活かし、仕事の中でその能力を発揮できるよう配慮している。管理者が言わずとも職員間で協力し、思いやり、お互いを尊重しながら楽しく仕事をしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症の方がその人らしく生活できる事。人生の先輩である事。職員間の思いやりが利用者のケアに反映される事だと日頃より伝えている	職員に「その人、一人ひとりの人権ってなあに」のレポートを書いてもらい、人権について考えてもらっている。日々のケアの中でも、声かけをし啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は全職員が交替で参加できるようにし、資格取得に必要な休みは全員でサポートしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に入会しており、全体研修会やブロックごとの研修会に積極的に参加している。又、宮若市のグループホームが毎月行っている勉強会にも交替で参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どのような事が不安なのか、何が原因なのか、ご本人の言葉や行動を通して想いを聴くようにしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談には、グループホームに来ていただきいつでも、誰でも相談には応じれるようにしている。入居が決まれば、自宅に訪問しどんな事が不安なのか、お一人お一人聴くことにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の順番待ちのときは、その方に合った利用の種類・場所に繋げるようにしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お年寄りのペース・想いを大切にし、何を必要とされているのかを気付く事ができるように過ごしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者は認知症実践者研修でも家族支援を受け持っており、共に生きていく関係作りに努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住まれていた家へご本人と一緒に行ったり、馴染みのある地域へドライブに行ったりしている	近所の友達に訪問してもらったり、馴染みのある行きつけの美容室に職員が同行し関係が途切れないよう支援している。水俣出身の方と、水俣駅まで職員が同行したことがあり、風景が変わっても懐かしがられ、自分が働いていた会社に気づくと、当時の思い出話をしだすことがあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お年寄り同士の関わりを大切にし、その時の雰囲気を見ながら職員が間に入るようにしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要なときにはいつでも相談に来られる空気があり、必要なときはいつでも管理者の携帯に電話をされるようにしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの想い謙虚に受け止めるように努めている	入居前に、どのように過ごしたいのかと、一人ひとりの暮らしや生活暦等の情報を得ている。入居後は日々のかかわりの中で、本人の言葉や表情等から真意を汲み取り希望や意思の把握に努めている。また家族等から情報をもとにアセスメントに追加記録を行い、職員間で情報が共有できるようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、入居時にはご家族から得た情報にご本人からの情報を加えてこれからの安心できる住まいになるようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を記録し、特変時はその都度申し送りや連絡ノートに記入している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の希望、ケアカンファレンスの内容を元に、担当・計画作成担当者の全員でケアプランを作成している	毎月ケアカンファレンスを行なっている。介護計画書はホーム独自の計画書を作成し、それぞれの項目に評価できるようにしている。本人の日ごろの様子、家族からの思いや意見を聞き反映している。また状態変化時は情報がわかりやすい様、別の書式を使用し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、気付いた事や何か想いがあれば、その都度話し合ったり記録に残すようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、ニーズにあったサービスが提供できるように、ケアカンファレンスで話し合い実行している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室は利用者が行きつけの所にお連れするようにしている。買い物には一緒に行き、希望されるものは購入されたり、ランチやアイスを食べに行く事もある		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の院長が主治医であり、急変時にはすぐに対応していただける	入所時に本人や家族等が希望するかかりつけ医の説明を行なっているが、現在では、殆どの家族の要望で併設病院の院長をかかりつけ医にしている。他科受診は基本的には家族同行の受診としているが、不可能な時は職員が代行をするようにしている。状態変化時は家族に連絡し普段の様子や変化を伝え、適切な医療が受けられるよう支援をしてる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回の訪問看護師によるバイタルチェックやケアにおける注意点など、健康面での管理をしていただいている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院の際には、病院側とご家族と一緒にケアカンファレンスをして退院後の生活に備えるようにしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何度もご家族と話し合いをし、共に取り組んでいる	入居契約時に終末期についての意思確認書を交わしている。3名の看取りを行なっている。本人が重度化や終末期においては、随時家族に確認しながら話し合いを行なっている。主治医も家族へ携帯番号を教ており、家族が安心できるようにしている。また終末期に家族が宿泊を希望した時は、食事も含め無償で対応を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設病院やGHみやわかの勉強会で学んでいる		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を行い、町内会やご家族の協力が得られるようにお願いしている	マニュアルを作成し年2回昼夜想定で、隣接のケアハウスと合同で訓練を行なっている。職員は避難経路や避難場所、連絡網の把握は出来ており、災害時は併設病院やケアハウスの職員、近隣の消防団との協力体制が築かれている。備蓄品については、想定を考慮して再確認を行なっている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お年寄りが不快な想いをしない言葉かけや対応を常に心がけている。上手く言った職員のことばかけを見習うように心がけている	職員は、常に利用者が嫌な思いをせず、楽しく過ごせるように心がけている。排泄時や入浴時は肌の露出を少なくする工夫をしてプライバシーを損ねないように配慮している。記録においては、他者の目に触れないよう事務所内に管理している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の想いを大切にし、会話の中の言葉や行動を通して、思いのまま生活できるよう支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当日のスタッフがお年寄りに希望を尋ねるなど、お年寄り主体で生活していただけるようにしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好まれる洋服やお化粧をして差し上げる 美容院は顔なじみ・行きつけの美容院を利用していただいている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と一緒に準備をする事が難しくなっているが、見守りながら出来る限りしていただいている	近隣から頂いた畑の野菜を大切にし、その日のメニューを決めている。ミキサー食が6名いる。食卓と調理スペースが近く、利用者は常に傍で会話をしながら、包丁の音や料理の匂い等を感じながら食事に望んでいる。食事中、職員は利用者の体調や様子をみながら、食事を無理強いすることなく、一緒に同じ物を楽しく食している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が困難な方には、トロメイクを使っている管理の必要な方には、水分・食事チェック表を利用している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一度、歯科より口腔ケアに来て頂いている。毎食後、歯ブラシを使える人は歯ブラシで、ガーゼで口腔清潔を保つ人、職員がすべて介助する人など、ご本人に応じて対応している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるように声かけを行い、お連れするようにしている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の動作や言葉から排泄の気配を感じ、周囲に気づかれないようトイレで排泄できるよう支援を行なっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やアシドミルクを飲んでいただき、なるべく薬に頼らずスムーズに排便ができるようにしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるよう日中は常時お湯をはり、お年寄りの望まれるときに入浴できる準備をしている。排泄の失敗にもすぐに、対応できるようにしている	週2～3回入浴としているが、希望があればいつでも入浴は可能である。現在は入浴拒否の方はいないが、以前は好きなケーキを浴室に持ち込んだり、花びらを浮かせ入浴を楽しむことが出来るような工夫をしていた。また寝たきりの人には、職員2人で一緒に入浴をする等対応を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の優れない方はリビングで寝ていただき、利用者が不安無く眠れるように、常に見守りができるようにしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の薬剤説明書を管理し、飲みやすいような支援、誤薬に注意している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	平均介護度4.2となったが、笑顔になられるように1日の過ごし方を、毎日早出が計画し実行できるようにしている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームの中だけの生活にしないことを目標にしており、毎日誰かがどこかへ行く。今の時期では、田植えを楽しみに見に行かれる方もいる	毎日の散歩は日課となっているが、一人ひとりの今までの習慣や楽しみごとを大切にし、利用者の要望があれば買い物の外出に同行支援をしている。また家族の協力を得ながら外食をしたり、花見の時期は一人ひとりにあった弁当やミキサー食を作り、外気での食事を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を支払うという事が難しくなられているが、出来る様に工夫している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時よりご家族との関係が悪くなった方はいない。電話をしたいといわれるときは、ご自宅に電話をするようにしている。手紙は職員が質問形式に書いて、続けて書いていただくこともある		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花を、玄関や室内に飾るようにしている	玄関口には、一人ずつに郵便受けがあり、居室内の手摺りの位置や高さ等、ハード面も利用者個々に合わせた職員の手作りである。廊下の照明のセードも和紙で目に優しく、工夫してあり利用者に好評である。随処に古布による利用者の作品を飾り、レトロな雰囲気は昔にタイムスリップしたようで暖かい雰囲気である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされたり、ソファで横になられたりと、ご本人が落ち着かれ、望まれる場所で過ごしていただくようにしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と一緒に写った写真などを、見える場所に飾っている	居室の入り口には、入居時に利用者が書いた表札が掲げてあり、室内は使いなれた箪笥や道具等を持ち込んでいる。家族の写真や、入居後の行事時の写真、誕生会の色紙が壁一面に飾られている。ベッドの高さや、手摺りの位置、畳敷きを希望する方等、個々にあわせて居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに困られているときは『便所』と書いたり、必要なときに必要なことで理解されるようにしている		